離職者訓練における職業能力評価に係る手引き

離職者訓練における職業能力評価に係る手引き

1. 概要

職業訓練指導員(以下、「指導員」という)は、受講者が履修する訓練科目の終了する時期など指導上適切と判断される一定の職業訓練の区切りにおいて、技能・技術の習得の程度を測定するための「訓練課題(実技)」及び技能・技術に必要となる知識の習得の程度を測定するための「訓練課題(学科)」を設定し、受講者に取り組ませ、課題実施終了後、その結果について「訓練課題(実技)」の評価を記載するシート(以下、「訓練課題確認シート」という。)等により評価を行い、各受講者の職業訓練の習得状況を客観的、総合的に測定する。

2. 評価の手順

職業訓練により受講者が習得した技能・技術及び知識(以下「技能等」という)をどの時期に、 どのような方法によって評価するかを検討し、総合的な訓練課題(実技及び学科)を設定すると ともに、訓練課題(実技)の評価を記載する「訓練課題確認シート」及び評価する際の「評価要 領(採点要領)」も作成する。

また、訓練課題(実技)の実施終了後は、「訓練課題確認シート」にて評価し、訓練課題(学科)については、解答を基に採点を行い評価とする。

さらに、評価結果の分析を行い、訓練課題や訓練内容等の見直しを行い、効果的な訓練の実施 に向けて改善を図る。

評価の手順は図1のとおりである。



3. 訓練課題 (実技) について

(1)訓練課題(実技)の設定

訓練課題(実技)は、次の事項に留意して設定する。

① 訓練課題(実技)の内容

- a) 訓練課題(実技) は、受講者が履修した仕事に対応した訓練のある一定のまとまり (以下「訓練のまとまり」という。) における技能等の訓練内容を含み、訓練目標に到 達できたかを評価できる内容とし、かつ、その内容から実際の仕事がイメージしやす い内容のものを設定する。
- b) 訓練課題(実技)は、受講者の就職活動や職業能力開発施設(以下「能開施設」という。)による訓練情報の提供にその成果物が活用できるようなものを設定する。
- c) 訓練課題(実技)は、訓練科目で履修した内容に関する安全衛生や関連法規等について確認できるような内容となるよう工夫する。
- d) 製品製作による評価が難しい場合は、基本的作業と特定の不具合などの状況をつくって診断を行わせ、不具合箇所の発見、修理法の選択を行わせるなど、創意工夫して、当該訓練科の受講者の習得度を評価する上で適切と判断される課題を設定する。

② 訓練課題 (実技) の時間

- a) 訓練課題(実技)の作業時間及び評価の時間は、原則として1日以内に終了するように設定する。
- b) 訓練課題(実技)において、その課題の制作過程を評価するもの、短時間の課題の 積み重ねにより仕上がるもの、時間の経過を要するものなどについては、最終評価に 対する公正性を保つことを考慮し、1日を越えて適切な時間を設定する。
- c) 訓練課題(実技)の作業時間の設定は、訓練課題(実技)の内容を充分に踏まえて時間配分に留意する。

③ 訓練課題(実技)の作成

a) 訓練課題(実技)には、表紙を付けて、開始の合図があるまで訓練課題(実技)の 内容が見えないように工夫する。また、表紙には時間、配付資料、提出方法、訓練課題(実技)を実施するための留意事項等を記入する。

調査研究資料 No. 146

- b) 訓練課題(実技)には、課題名、課題時間(作業内容、標準時間、最終終了時間)、 課題の仕様(作業仕様、加工仕様、課題部品図、課題組立図、課題の作成例等)、課 題用材料(品名、寸法または規格、数量、備考等)、使用機材等一覧(品名、寸法ま たは規格、数量、備考等)を記入する。
- c) 訓練課題(実技) を実施するにあたって必要な指示、安全衛生及びその他の注意事項を記入する。
- d) 訓練課題(実技)の問題は、わかりやすい表現で問題を記入し、図や写真等は、誤解が生じないよう鮮明なものを使用する。
- e) 実技による評価が難しい場合は、実技がどの程度できるかを筆記等により代行できるような課題を設定する。この場合、事前に、模範解答を作成する。また、解答に解説を設け、なぜその解答なのかを受講者に判りやすく説明できるようにする。

④ 作業工程計画書の設定

a) 訓練課題(実技)には、その実施に係る作業工程手順や作業工程における留意事項等を受講者に確認させるための「作業工程計画書(様式1参考)」等の作成を原則含むこととする。

訓練課題の内容によっては、作業工程計画書は別途事前に提出させたり、指導員が事前に提示したりするなど工夫する。

- b) 「作業工程計画書」は、様式1を参考にして作成することとし、「作業工程」欄には、訓練課題を進めるための作業工程、「ポイント(留意事項等)」欄には、その作業工程における安全衛生の留意点や作業上のポイントなどを記入させ、必要に応じて「参考資料(写真、図面等)」には、作業工程の写真や必要となる図面等を添付させる。
- c) 「作業工程計画書」は、原則記述式とするが、手順が複雑で多岐にわたる場合や時間配分等により作成が困難な場合は、「択一法(多肢選択)」、「補足法」、「並べ替え」など作業工程について受講者が作成しやすいよう工夫する。

(例1)

作業工程の内容をいくつかの工程に分割し、入れ替えて提示し、どのような順番で行うか、受講者に番号を記入させる。

(例2)

筆記等による訓練課題(実技)を作成した場合、実際の作業工程について問う問題 を追加する。

d) 指導員は、事前に「作業工程計画書」の模範的な解答を作成する。

⑤ 訓練課題 (実技) 実施要領

訓練課題実施担当者が異なっても、同様の進め方ができるよう、指導員向けに訓練課題(実技)を進める際の手順や留意事項等を記載した「実施要領」を作成する。

(2) 訓練課題 (実技) の評価基準の設定

客観的かつ公正な評価を行うとともに、訓練受講者及び求人企業等の採用担当者がその内容を容易に理解できるように設定基準を検討し、次のとおり、「訓練課題確認シート」及び「評価要領(採点要領)」を設定すること。

①「訓練課題確認シート」の作成

様式2を参考に、訓練課題(実技)の実施状況及び成果物を採点し、その評価結果を記載するシート(「訓練課題確認シート」)を作成する。

また、他の指導員、受講者、企業の採用担当者等が理解できるように表現等に留意する。

a) 「訓練目標」欄

訓練課題(実技)を行う「訓練のまとまり」において習得すべき職業能力または育成する人材像などの目標を記入する。

b) 「訓練科目と内容」欄

訓練課題(実技)を行う「訓練のまとまり」に含まれている訓練科目名、内容及び時間を記入する。

c) 「仕事との関連」欄

訓練課題(実技)と実際の仕事や作業等とのつながりを具体的に記入する。

g) 「訓練課題のねらい」欄

訓練課題(実技)を通じて何を評価するのか、職業訓練で習得した内容のどのよう

な技能等の能力を評価するのかなどその内容を具体的に記入する。

h) 「評価する能力等」欄

訓練課題(実技)で、どのような能力を評価するのか、訓練科目における技能等の到達目標などを「〇〇ができること」や「〇〇を知っていること」などの表現で、「評価項目」または「評価区分」ごとに具体的に記入する。

i) 「評価区分」欄

- ・「訓練課題のねらい」を基に、「安全作業」、「作業時間」、「作業工程」、「仕上がり」、「試験」など、訓練課題(実技)において評価判定する区分を設定する。
- 「安全作業」と「作業時間」は必須項目とする。
- ・「作業工程」は、訓練課題(実技)における「作業工程計画書」を評価し、原則必 須項目とする。

j) 「評価項目」欄

- ・「評価区分」ごとに評価項目を設定する。
- ・「訓練課題のねらい」を基に、それぞれの「評価区分」において、どのような視点で、 どのような内容を評価するのかを明確にし、「細目」と併せて検討し、設定する。

k) 「細目」欄

- ・「評価項目」の内容を具体的に記入する。
- ・「評価項目」と併せて検討し、その内容を設定する。

1) 「評価(数値) | 欄

- ・評価項目ごとの「配点」及び「加点または減点等の採点のための数値」が把握でき、 評価担当者が評価しやすいよう数値を記入する。
- ・評価項目ごとの配点を原則1点から5点の5段階評価とするが、必要に応じて最低 点を0点としたり、最高点を10点としたりするような工夫をする。
- ・最高点が5点と設定した場合、標準点(合格点)を3点に設定する。
- ・訓練課題(実技)の項目で安全衛生や特に重視しなければならない技能等の評価項目など、内容によって評価の基準が異なる場合は、次のように数値の設定を工夫する。

(例1)

5段階評価で配点を1点から5点を基準とした場合、特に重視する項目については、2点から10点までの2点きざみの数値を設定する。

(例2)

安全衛生等の必ず守らなければならない事項や5段階で評価できない項目について は、0点または5点と設定し正否のような判断とするなど評価数値の設定をする。

m)「評価基準」欄

- ・評価担当者の解釈によって評価の結果が大きく異なることのないよう、具体的に何がどのようになったら、どのくらい減点または加点なのかを詳細に記載し、客観的かつ具体的な評価基準を設定する。
- ・評価区分・評価項目の配点、採点内容を具体的に設定する。
- ・「評価基準」欄に全て記入できない場合は、「評価要領」に詳細を記入するなど、 別途採点方法や基準等を添付する。
- ・作業時間については、「標準時間」と評価を行うための「最終終了時間」を設定し、 「標準時間」を超えるごとに減点するよう設定する

(例)

標準時間60分、最終終了時間80分

標準時間以内で5点、 65分以内で4点、 70分以内で3点 75分以内で2点、 80分以内で1点、 80分超過で0点

n) 「コメント」欄

訓練課題(実技)の評価終了後に、受講者の訓練受講における取組姿勢や訓練課題の完成の度合いなど、受講者のアピールとなるような特筆すべき事柄について明記する。また、補講後の再評価とその結果を記入する。

②「評価要領(採点要領)」の作成

誰が評価をしても同じ結果になるように、「訓練課題確認シート」に設定した評価項目 (または細目) ごとに様式3を参考にして「評価要領(採点要領)」を作成する。

a) 「評価要領(採点要領)」欄

- ・「評価要領(採点要領)に示すべき内容」(別紙1)に留意して、評価担当者の解釈によって評価の結果が大きく異なることのないよう、わかりやすく、具体的で詳細な採点要領を作成する。
- ・採点内容を詳細に表等に表した採点票、採点箇所を示した図面、採点方法など、 評価の際に必要なものは、別途添付する。

b) 「備考」欄

評価のために必要な測定具等を記入する。

(3)訓練課題(実技)の実施

訓練課題(実技)は、3-(1)-③-e)で作成した実施要領に基づき、次の事項に留意して実施する。

① 訓練課題(実技)の実施時期

補講等の再評価の時間数を考慮し、評価する「訓練のまとまり」の訓練期間が概ね8割に達する日から終了日までの間の適切な時期に実施する。

② 訓練課題 (実技) の開始

- a) 訓練課題(実技)を開始する前に、受講者に対し、安全衛生に関する留意事項、訓練課題(実技)を通じて習得状況を評価する趣旨、訓練課題のねらい、その他訓練課題(実技)に取り組むに当たっての留意事項等について「訓練課題確認シート」を基に説明する。
- b) 訓練課題(実技)を開始する前に、訓練課題(実技)の表紙に記載している時間、配付資料、提出方法、訓練課題(実技)を実施するための留意事項等について説明する。

③ 訓練課題(実技)の実施

- a) 訓練課題(実技)を実施する際に、指導員は「作業工程計画書」を配付し、訓練課題をどのように進めていくか、作業手順、ポイント等を記入させる。
- b) a) で作成した「作業工程計画書」に基づき、訓練課題を実施する。 なお、「作業工程計画書」に明らかに誤りがある場合で、実施上、危険な不安全作業 になること、または、他の受講者の作業の妨げになることが想定される時は、受講者

が作成した「作業工程計画書」を回収した後、指導員が「作業工程計画書」の模範解

答を配付して正しい手順を明確にしてから、訓練課題を開始する。

c) 訓練課題(実技)に取り組んでいる間、指導員は受講者が本人及び他者に対して不安全な影響を与える行動をしていないかなど、安全衛生に充分留意して受講者の作業状況を観察し、受講者が不安全な行動をした場合は、その都度速やかに指導する。また、危険度合いが高いと判断した場合はその作業を中止させる。

- d) 受講者から質問があった場合は、速やかに対応する。また、受講者全員に共通して 伝えるべき事項が生じた場合は、速やかに伝える。その際、説明に時間がかかる場合 は、説明に係る時間を除いた終了時間にするなど、受講者の不利にならないように配 慮する。
- e) 受講者の訓練課題(実技) への取り組み状況を観察し、技能等の習得状況を確認する。このとき、「訓練課題確認シート」による評価を円滑に行えるように受講者の課題への取り組み状況や技能等の習得状況を記録しておく。

④ 訓練課題(実技)の終了後

a) 受講者が時間内に訓練課題(実技) を完成できない場合、速やかに補講を行い、受講者が訓練課題(実技) を完成できるよう指導する。

(4) 訓練課題 (実技) の評価

- ① 訓練課題(実技)の採点
 - a) 「訓練課題確認シート」による評価は、原則として採点を担当する複数の指導員が、 訓練課題(実技)の実施終了後、「評価要領(採点要領)」を基に採点を行い、「訓 練課題確認シート」に記入する。

② 評価の判定

a) 評価区分ごとの評価判定

評価項目ごとに、訓練課題(実技)の評価基準に基づく評価を行い、各「評価(数値)」欄の該当する数字に○を記入するとともに、算式1から評価区分ごとの「評価(数値)」欄の点数の平均値を算出し、判定表1による判定結果を「評価判定」欄にA~Cで記入する。

b) 訓練課題(実技)の合計得点の算出

各評価項目に対する「評価(数値)」欄の合計点と「評価(数値)」欄の満点の合

計を「訓練課題(実技)の評価」欄の「合計点/満点」欄に記入する。

c)訓練課題(実技)の評価

換算点を算式2から算出し、点数を「換算点」欄に記入し、判定表2による判定結果を「評価」欄にA~Cで記入する。なお、端数は、小数点第1位で四捨五入とする。 (換算点は、訓練課題の数により、合計点が必ずしも100点満点とならない場合があるため算出する。従って、合計点が100点満点の場合は、省略可。)

(算式	2>		
	受講者の合詞	↑点(実技)	× 100
	満点()	ミ技)	— ×100
(判定	表2>		
Α	80点以上	できる。	
	80点以上60点未満	できる。 だいたいできる。	

d) 平均点の算出

上記 c) で算出した「換算点」を基に、算式3から訓練課題(実技)を実施した受講者の平均値を算出して「平均点」欄に記入する。

<算式3> 訓練課題(実技)を実施した受講者の換算点(実技)の合計 訓練課題(実技)を実施した受講者数

(5) 訓練課題(実技)評価後のフォローアップ

① 補講等の実施

- a) 評価判定の結果が「B」レベルに達しない受講者に対しては、予め設定している調整時間等を利用して当該受講者に対して補講を行い、「B」レベルの水準以上となるように指導する。
- b) 「評価区分」にある「安全作業」の評価が「C」である場合は、総合評価判定の結果に関わらず、指導する。

② コメント欄への記入

a) 受講者の訓練受講における取組姿勢や訓練課題の完成の度合いなど、受講者のアピールとなるような特筆すべき事柄について明記する。また、補講後の再評価とその結果を記入する。

4. 訓練課題(学科)について

(1)訓練課題(学科)の設定

- ① 訓練課題(学科)の内容
 - a) 訓練課題(学科) は、受講者が履修した「訓練のまとまり」における技能等に必要な知識を含み、訓練目標に到達できたかを評価できる内容とする。
 - b) 「訓練のまとまり」で履修した内容に関する安全衛生や関連法規等に関わる問題を 原則設定する。
- ② 訓練課題(学科)の問題及び時間等の設定
 - a) 訓練課題(学科)の実施時間は、原則として50分以内とする。
 - b) 問題数については、50分以内に終了できる問題数で設定する。各方法の問題数の目安 は下記のとおりである。

方法	問題数
正誤法(真偽法)	~50問
択一法(多肢選択)、補足法	~30問
記述法	~10問
複数の方法の組合せ	~30問

③ 訓練課題(学科)の作成

- a) 訓練課題(学科)には、表紙を付け、開始の合図があるまで訓練課題(学科)の内容が見えないように工夫する。また、表紙には時間、提出方法、訓練課題(学科)を実施するための留意事項等を記入する。
- b) 訓練課題(学科)の問題は、わかりやすい表現で記述し、図や写真等は、誤解が生じないようできるだけ鮮明なものを使用する。
- c) 訓練課題(学科)の問題を作成するとともに、受講者が解答を記入する用紙を作成する。その際、その用紙には、採点した際に算出される点数を記入する「合計点」欄を作成する。

- d) 解答が1問に対して1解答となるような問題を設定する。
- e)訓練課題(学科)は、正誤法(真偽法)、択一法(多肢選択)、補足法(穴埋め)、 記述法により設定する。
- f)問題は、正誤法等の一つの方法のみ、または、正誤法と択一法等の複数の方法を組み合わせた構成とする。
- g) 問題用紙には配点を記入する。

(2)訓練課題(学科)の解答と解説

- ① 解答及び解説の作成
- a) 訓練課題(学科)の「解答及び解説」を作成する。解答に解説欄を設け、なぜその解答なのかを受講者に判りやすく説明できるようにする。例えば、正誤法の場合、なぜそれが×なのかを説明し、○の場合は、補足の必要があれば説明を記入する。
- b) 訓練課題(学科)は、各方法で設定した問題の合計点数を 100 点満点とし、解答または解説等に配点を記入する。
- c) 特に覚えていなければならない重要な問題については、配点を高くするなどの工夫 をする。
- d) 採点に関して特記する事項があった場合は、その具体的な採点内容を解答または解 説等にわかりやすく記入する。例えば、記述法において、完全正解の内容を部分的に 記載した場合の解答及び配点を具体的に記入する。

(3)訓練課題(学科)の実施

- ① 訓練課題(学科)の実施時期
 - a) 補講等の再評価の時間数を考慮し、評価する訓練のまとまりの訓練期間が概ね8割に達する日から終了日までの間の適切な時期に実施する。
- ② 訓練課題(学科)の開始
 - a) 訓練課題(学科)を開始する前に、受講者に対し、訓練課題(学科)を通じて習得 状況を評価する趣旨、その他訓練課題(学科)に取り組むに当たっての留意事項等に

ついて説明する。

③ 訓練課題(学科)の実施

a) 受講者から質問があった場合は、速やかに対応する。また、受講者全員に共通して 伝えるべき事項が生じた場合は、速やかに伝える。その際、説明に時間がかかる場合 は、説明に係る時間を除いた終了時間にするなど、受講者の不利にならないように配 慮する

(4)訓練課題(学科)の評価

- ① 訓練課題(学科)の採点
 - a) 訓練課題(学科)の実施終了後、採点を担当する指導員が、解答及び解説を基に採 点を行い、受講者が解答を記入する用紙の点数欄に記入する。
- ② 評価の判定
 - a) 採点を行い、その結果を「解答用紙」の合計点欄に記入する。

(5) 訓練課題(学科)評価後のフォローアップ

- ① 補講等の実施
 - a) 評価判定の結果が60点未満の受講者に対しては、予め設定している調整時間等を 利用して当該受講者に対して補講を行い、60点以上となるように指導する。

5. 訓練課題 (実技及び学科) の評価結果

(1)訓練課題(実技及び学科)の評価結果の分析

訓練課題(実技及び学科)の評価結果を整理、分析し、受講者の習得状況の傾向を把握する。(分析方法の例については、別紙2を参照)

(2) 訓練課題 (実技及び学科) 及び訓練内容等の改善

- ① 訓練課題の実施状況や「訓練課題確認シート」による評価結果等により、訓練課題の内容を点検し、改善すべき事項があれば、その後の職業訓練に反映させる。
- ② 訓練課題の改善に当たり、受講者の意見を聴いたり、実際に行ったりした訓練課題の概要や成果物等を事業所等に提示し、訓練課題に対する意見や評価等について聴き

取りを行うなど、創意工夫して取り組む。

- ③ 訓練課題(実技及び学科)の評価の分析結果を基に、自らの指導方法を点検し、改善すべき事項があれば、その後の職業訓練での指導方法に反映させる。
- ④ 能開施設において、訓練課題評価の結果を訓練科ごとに整理し、訓練及び訓練課題の 内容並びに指導方法等について評価を行い、受講者の技能等の習得状況が低調な訓練科 については、その原因を把握、分析の上、効果的な職業訓練の実施に向けて改善を図る。

(3) 「訓練課題確認シート」の活用

「訓練課題確認シート」は、同シートを基に作成した資料と併せて受講者に交付するほか、「訓練課題確認シート」を基に求人事業所等に対する受講者の能力情報の提供や職業訓練の成果を認知してもらう際の資料を作成するなど、「訓練課題確認シート」の積極的な活用を図り、受講者の早期再就職に資する支援を行う。(「訓練課題確認シート」の活用例については、別紙3を参照)

様式1

作業工程計画書

作業工程	ポイント(留意事項等)	参考資料(写真、図面等)

作業工程計画書(受講者配付用例)

作業工程	ポイント(留意事項等)	参考資料(写真、図面等)
準備	作業場所の確認・整理	
	工具の確認・整備	
	材料の確認	
1. チョーク打ち	電線管・ケーブル・器具を取付ける際に基準となる	
	線を引く。	
a and table haden and		
2. 電線管の()	工具の取り扱いや作業場所に注意し、怪我のないよ うに作業する。(工具に体を挟み込んだり、指を切っ	
	たり、()で火傷をしないように気をつける)	
3. 電線管・ボックスの	基準位置に合わせて取付け作業を行う。	
	のないように気をつける)	
 4. 配線・器具の取付	 通線作業を行う前に管は清掃しておく。電線や器具	
	には傷をつけないように作業する。(電工ナイフで指	
	を切ったり、()で指を叩かないように気をつけ	
5. 目視点検	る)	
	器具の取付や電線の接続等に誤りがないか確認す	
	る。	
6. ()抵抗測定		
	 ()を用いて測定を行う。適切な測定結果が得	
	られない場合は測定を中断し、不良箇所の確認をし	
7. ()試験	作業をやり直す。	
	 ()やベルを用いて回路に誤りがないか確認	
	する。誤りがあればその部分の作業をやり直す。	
8. ()試験		
	 試験時はブレーカーの開閉状況よく確認して感電	
	することのないように動作確認を行う。	

() 内に当てはまる適切な語句を選択肢から選んで記入しなさい。

選択肢

メガ 取付 導通 通電 絶縁 接地 相回転計 検電器 金づち ガストーチ 加工 通線 ドライバー テスター 接地抵抗計

作業工程計画書(模範解答例)

作業工程	ポイント(留意事項等)	参考資料(写真、図面等)
準備	作業場所の確認・整理 工具の確認・整備 材料の確認	
1. チョーク打ち	電線管・ケーブル・器具を取付ける際に基準となる線を引く。	
2. 電線管の(加工)	工具の取り扱いや作業場所に注意し、怪我のないように作業する。(工具に体を挟み込んだり、指を切ったり、(ガストーチ)で火傷をしないように気をつける)	
3. 電線管・ボックスの (取付)	基準位置に合わせて取付け作業を行う。 (ねじは締付け方に注意し、(ドライバー)で指を刺す ことのないように気をつける)	
4. 配線・器具の取付	通線作業を行う前に管は清掃しておく。電線 や器具には傷をつけないように作業する。 (電エナイフで指を切ったり、(金づち)で指	
5. 目視点検	を叩かないように気をつける) 器具の取付や電線の接続等に誤りがないか確認	Total Control of the
6. (絶縁)抵抗測定	する。	The second
7. (導通)試験	(メガ)を用いて測定を行う。適切な測定結果 が得られない場合は測定を中断し、不良箇所の 確認をし作業をやり直す。	
8. (通電)試験	(テスター) やベルを用いて回路に誤りがないか確認する。誤りがあればその部分の作業をやり直す。	
	試験時はブレーカーの開閉状況よく確認して感電することのないように動作確認を行う。	

訓練課題確認シート

様式2

氏名				訓練課題名	
入所月				訓練科名	
実施日	年	月	日	訓練目標	
訓練	課題の	ねらし	۸,	训褓口惊	
					Н
		訓練科目と内容	Н		
					Н
				仕事との関連	•

	評価								評価	
評価する能力等	区分	評価項目	細目		評値	西(娄	女値:)	判定	評価基準
	作			1	2	3	4	5		
	業			1	2	3	4	5		
	作業時間			1	2	3	4	5		
	11.3									
	作業			1	2	3	4	5		
	作業工程			1	2	3	4	5		
	程			1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				2	4	6	8	10		
				2	4	6	8	10		
				2	4	6	8	10		
				2	4	6	8	10		
				1	4	6	8	10 5		
				1				5 5		
				1				5		
				1				5		
				1				5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				1	2	3	4	5		
				0				10		
	安全			ļ		<u> </u>				
	安全作業									
	業			0				10		
77.1			△≒上/#上]				<判定表>
コメント			合計点/満点				/	10		へ刊足扱ン A : 80点以上:よくでき
			換算点				10			る。
			平均点				′ 10	JU		B : 60点以上 80点
	訓糸	東課題(実技)								未満 : だいたいでき る。
	市川市	* 麻越 (美投) の評価								C: 60点未満:追指導
セット 道による		-> H Im	評価							を要する。
担当指導員氏名:			計画							ノ質ザン
 評価担当者氏名:										<算式> 換算点 =
1 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1										合計点/満点 ×100
				<u> </u>						

訓練課題確認シート(記入例)

氏名			訓練課題名	低圧屋内配線工	□≇	4						
入所月 実施日	年 月	-	訓練科名	電気設備科								
	<u> </u>	<u> </u>	訓練目標	電気設備工事の	の施	ĒΙ,	保	守行	管理	里及び屋内配線設計ができる。		
1 <u>低圧层内配線工車ができ</u> 2 ◆「訓練課題のねらい」	***					一般用電気設備 工事 I	莆					工作物の工事に関する技能及 を習得する。
訓練課題(実技)を通じて何を評価するのか、訓練で習得した内容のどのような技能等の能力を			訓練科目と内 容	一般用電気設備 工事 II	莆					工作物の設計、工事、試験、検 技能及び関連知識を習得する。		
				_								
体的に記入する。			仕事との関連	電気工事作業						1		
評価する能力等		評価区分	評価項目	細目	評	平価(数	値)		評 価 評価基準 実		
定められた時間内に作業ができ	*ること ●		工程計画作 成時間	作業手順、施工 方法	1	2	3	4 5		5点:15分以内、4点:20分以内、3 点25分以内、2点:30分以内、1点: 30分超え		
◆「評価する能力等」 訓練課題(実技)で、どのような力を評価するのか、訓練科目に	こお	作業時間	作業準備時間	材料の準備	1	2	3	4 !	5	5点:15分以内、4点:20分以内、3 点25分以内、2点:30分以内、1点: 30分超え		
ける技能等の到達目標などを のができること」や「〇〇を知っ いること」などの表現で、「評価	oて B区		作業時間	器具の配置、配 線	1	2	3	4 5	5	5点:210分以内、4点:240分以 内、3点270分以内、2点:300分以 内、1点:300分超え		
分」や「評価項目」に対応する根 具体的に記入する。	新 に ―――	Τ			<u> </u>	1 1		1		◆「評価項目」		
◆「評価区分」 「安全作業」、「作業時間」は 項目とし、「訓練課題のねら 基に、「仕上がり」や「試験」 評価判定する区分を設定する	い」を など、	J 	器具配置	総合バランス	1	2 3	,]	4 5	-	練課題のねらい」を基に、それぞれの「評価区分」において、どのような視点で、どのような内容を評価するのかを明確にし、設定する。 例1)「仕上がり」という評価区分の「評価項目」に、配管(金属管)や配管(VE管)ないませんのの「報告(評価による策算)		
・器工具の名称がわかり、その できること)使用がよく			ずれ、傾き 管の加工、取り			,	1		ど完成したものの「部位(評価する箇所)」 を設定する。 例2)「仕上がり」という評価区分の「評価項		
・金属管配線の基本作業がよく ・露出配管工事がよくできること			配管(金属管)	付け	1	2 3	3	4 5		目」に、管の加工、取り付けなど「作業」を 設定する。 例3)「試験」という評価区分の「評価項目」		
器工具の名称がわかり、そのできること露出配管工事がよくできること	:		配管(VE管)	/ 管の加工、取り /付け	1	2 3	3	4 5	<u></u>	に「各試験の方法」を評価項目として設立する。		
・可とう電線管配線がよくできる・器工具の名称がわかり、そのできること・露出配管工事がよくできること・可とう電線管配線がよくできる)使用がよく :	仕上が	配管(PF 管)	を 管の加工、取り 付け	1	2 3	3	4 5	5	管外形の1/3 以上のつぶれ、端口の未処理、ぐらつき又は変質があるごとに1点ずつ減点し、最低点を1点とする。		
・電線の基本接続がよくできる。 ・器工具の名称がわかり、その ◆「細目」 評価項目の内容を具体的に	こと)使用がよく	IJ	ジョイント ボ ックス	ブッシング、コネ クタ、ボンド線	1	2 3	3	4 5	5	ブッシング、 スクタ又はボンド線の 取り付け不良があるごとに1点ずつ 減点し、最低点を1点とする。		
例)「評価項目」の「配管(金 て、「管の加工」と「取り付 のような完成度であるか、 ・- ・器工具の名称がわかり、その	:属管)」にお け」について 、「仕上がり	どった	◆「評 ・評価 大き が、	価基準」 担当者の解釈によ く異なることのない どのようになった。	ょ	う、』	具作	本的	11=	何		
できること ・屋内配線図記号についてよく こと			配線 なの (VV 的な)かを詳細に記載し 評価基準を設定す 区分・評価項目の	、客 る。	字観 f	的力	うつ	具	体 があるごとに1点ずつ減点し、最低点 を1点とする。		
・電気設備技術基準について知	口っているこ		- a+1m	67 叶侧块口07	ᄪᄼᅔ	m . 1	不 力	ii Pi	T			

評価要領

訓練課題名	
訓練科名	

評価	== /== == ==	ATT CT		ш.т.
評価 区分	評価項目	細目	評価要領(採点要領)	備考
作				
作業時間				
間				
<i>\\</i> ⊏				
業				
作業工程				
安全作業				
作業				
	_			

評価要領 (記入例)

訓練課題名	低圧屋内配線工事
訓練科名	電気設備科

評価 区分	評価項目	細目	評価要領(採点要領)	備考
	工程計画作成時間	● 作業手順、施 工方法	る。 ・10 分後に経過時間を告げる。以降5分毎に経過時間を告 げ、30分で終了する。	時計
∥練課題∂	、「評価項目」、「細 、「評価項目」、「細 確認シート」に記入り 事項を記入する。		・指導員の合図により作業を開始する。材料が準備できたら 着席する。 ・10 分後に経過時間を告げる。以降5分毎に経過時間を告 げ、30分で終了する。	
		の配置、	・指導員の合図で作業開始、休憩は一斉とし、作業完了は指導員が確認する。 ・300分で作業を終了する。	
作		作業工程手順	模範解答との相違1箇所につき1点減点する。	
作 業 工 程	作業工程におけ る留意事項等	作業工程にお ける留意事項 等	模範解答との相違1箇所につき1点減点する。	
	器具配置	総合バランス ずれ、傾き	いて、スケールを用いて確認を行う。	・スケール ・水 平 器 (デジタ ル傾斜計)
	配管(金属管)	管の加工、取 り付け	・目視により、管のつぶれの有無、端口処理の有無を確認する。 ・適切にサドルが取り付けられていることを確認する	
	配管(VE管)	管の加工、取 り付け	・目視により、管のつぶれの有無、端口り 色)の有無を確認する。 ・適切にサドルが取り付けられていること ・(別紙1)に留意して	領)に示すべき内
	配管(PF管)	管の加工、取 り付け	・目視により、管のつぶれの有無、端口 によって評価の結り る。 のないよう、わかり ・適切にサドルが取り付けられていること な採点要領を作成す	やすく、具体的で
仕上がり	ジョイントボック ス	ブッシング、コ ネクタ、ボンド 線	・適切にブッシングが取り付けられている ・ 採点しやすいよう採 ・適切にコネクタ及びボンド線が取り付け に表した採点票や拐 する。 等、評価の際に必要	係点箇所を示した
	配線 (VVFケーブル)	電線の加工、色別	・目視により、電線被服の傷の有無、ケーの有無を確認する。 ・適切にステップルが使用されていること ・目視により、電線の色別の正誤を確認す	
	終端接続	圧着接続、コ ネクタ接続	・目視により、リングスリーブは圧着の良 ネクタは心線の差込状態を確認する。	
	器具(取り付け)	スイッチ、照明 器具の取り付け	・浮きが認められる場合は器具とパネル板の隙間をスケール	· <i>スケール</i> · 水 平器 (デジタ ル傾斜計)
	器具(配線)	スイッチ、照明 器具の電線接 続	・目視により、露出器具は端子ねじへ接続する電線の輪作り の良否、締め付け状態を確認する。 ・埋込器具は心線の差込状態を確認する。	・トルクドライバ 一
検試査験	絶縁抵抗測定 導通試験	測定器の取り扱い	はしない) ・絶縁抵抗値又は導通試験で不良があった場合は、通電試験	・絶縁抵抗計(メ ガ)、・負荷、 ・回路計(テスタ 一)
確 動認 作	通電試験	動作評価	荷により確認する。 ・検電器を用いて照明器具およびコンセントの極性を確認する。 ・試験は感電事故防止のため、指導員とともに行う。	・負荷(白熱電球等) ・検電器(検電ドライバー)
作安業全	安全作業	他の作業者へ	・他のした場●「備考」	

評価要領(採点要領)に示すべき内容

区分		訓練課題における記述内容等	評価要領(採点要領)に示すべき内容
		満たすべき要件や機能を示す場合	要件や機能に応じた確認方法や評価方法を示し、その 結果に応じた段階的な評価得点を示す。
	課題仕様	特定の接合方法、連結方法、結線方法等を示す 場合	それぞれの方法や内容に関する評価観点を示し、その
		条件に応じた動作内容、処理内容、反応内容等 を示す場合	結果に応じた段階的な評価得点を示す。
=1.1		特定の評価方法を示す場合	特定の評価方法に応じた段階的な評価得点を示す。
訓練		規定寸法及びその許容範囲(公差)を示す場合	
	課題部品図		使用する測定具(測定治具を含む。)等とともに測定箇
各観的証	課題組立図		所及び測定要領を示し、測定結果に応じたまたは誤差 の範囲に応じた段階的な評価得点を示す。
価	从经机工 包	組立の垂直度、指定の角度、平行度、平面度等 を示す場合	
	完成した課題	動作部分、動作距離、動作機能、運動条件等を示す場合	動作や運動の確認方法、動作距離(長さ)の測定方法、 機能の判断方法を示し、その結果に応じた段階的な評 価得点を示す。
		圧力検査、非破壊検査等の試験検査内容を示 す場合	試験や検査要領を示し、その結果に応じた段階的な評価得点を示す。
	その他	未完成箇所の有無を考慮する必要がある場合	未完成の箇所に応じた段階的な評価得点を示す。
	完成した課題	全体的なできばえやみばえを考慮する必要がある場合	できばえやみばえの程度に応じた一般的な評価基準を 示し、その結果に応じた段階的な評価得点を示す。
練課		仕上げ面のできばえやみばえを考慮する必要が ある場合	できばえやみばえの程度に応じた一般的な評価基準を
	完成した課題の 各部分	接合部分や組立箇所のできばえを考慮する必要 がある場合	示し、その結果に応じた段階的な評価得点を示す。
的評価		きず、へこみ、ひび割れ、穴等の有無を考慮する 必要がある場合	きず、へこみ、ひび割れ、穴等の程度に応じた評価基準 を示し、その結果に応じた段階的な評価得点を示す。
	創意工夫	創意工夫の有無を考慮する必要がある場合	評価課題の代表的な創意工夫例を示し、その結果に応 じた段階的な評価得点を示す。
	作業時間	課題時間を考慮する必要がある場合	標準時間を超過した時間に応じた段階的な減点要領を 示す。
	作業工程	作業工程計画書等を作成し作業手順及び留意 事項等を示す場合	代表的な作業手順及び留意事項を示し、提出された作 業工程計画書等の結果に応じた段階的な減点要領を示 す。
発作業に関	<i>16-24-2-</i>	課題仕様において指定された箇所の処理方法、 作業方法、機械器具等使用を示す場合	課題仕様に示す処理方法、作業方法、機械器具等使用 を行っているかを観察し、その結果に応じた減点要領を 示す。
作製作業に関連する評価	作業方法	器工具や機械器具の取り扱いを示す場合	器工具や機械器具の取り扱いにおける代表的な誤った 例を示し、その観察結果に応じた段階的な減点要領を 示す。
	安全衛生	不安全行為や違反行為を示す場合	代表的な不安全行為や違反行為を示し、その観察結果 に応じた段階的な減点要領を示す。
	メエ闸工	作業態度を示す場合	作業態度の代表的な悪い例を示し、その観察結果に応 じた段階的な減点要領を示す。

別紙2

「訓練課題」及び「訓練課題確認シート」の活用例について

訓練課題を実施した後は、早期就職に役立てるための資料を作成し、「訓練課題」及び「訓練課題確認シート」の積極的な活用を図ることが望ましい。

受講者が取り組んだ「訓練課題」及び「訓練課題確認シート」等をファイリングし、希望する就職先へ提示することで、企業側は、受講者がどのようなことを履修しどのような能力を習得しているかを把握することができる。

ファイリングする資料としては、次の(1)から(7)のような構成例が考えられる。

- (1) 履歴書等(職務経歴書、自己アピール等) 受講者の履歴書、職務経歴書、自己アピール等の必要書類を提示する。
- (2)受講した科の紹介等(各施設の紹介等から抜粋)受講者が所属する施設や科の紹介等を提示する。
- (3)履修カリキュラム(例1)受講者が履修したカリキュラムを提示する。
- (4)訓練課題訓練課題を提示する。
- (5)作業工程計画書(様式1) 訓練課題において作成した作業工程計画書等に、必要に応じて作業に関連した写真や図な どを添付し提示する。
- (6) 訓練課題確認シート(様式2) 採点結果が記載された訓練課題確認シートを提示する。
- (7)訓練課題完成図(例2)

最終的にどのような製品等が仕上がったのかを写真などを配置するなどして提示する。

また、例3のように、次のような工夫も必要である。

- (1)訓練課題確認シートと訓練課題完成図を組合せ、写真等もよりポイントとなる部分の写真と全体写真を配置するなど、企業側によりわかりやすく訓練課題と受講者の習得状況を提示する工夫も必要である。
- (2) コメント等において、受講者自身がこれまでの体験や実績と併せて自分をアピールできるような記述をするなど、訓練課題確認シートだけでは伝わらない内容についても表現をする。

例1. 履修カリキュラム

履修カリキュラム

	訓練科名	テクニカルオペレーション科	
	訓練目標	・ドラフターを用いた機械製図を理解し、CADシステムによができる。 ・NC機械のプログラミング及び操作ができる。	る製図
	関連業務	CADを使用して図面を作成する業務 NC工作機械のプログラムを作成する業務 NC工作機械のオペレーター等	
	科目	内容	時間
告山	製図基本作業	製図一般、図示法、各種図示法、断面図、図示法・公差、 機械要素及び課題演習	108
製図・CAD	CAD基本作業	CADの概要、基本コマンドの操作、基本コマンドによる作図、正投影法による作図、部品図の作成、課題演習	108
A D	3次元CAD	3次元形状の作成、3次元形状の編集、2次元図面への展開、複合モデリング演習、アセンブリモデリング、総合課題演習	108
	NC旋盤作業	測定、切削技法(旋削)、プログラミング、機械操作、加工作業、課題演習	108
N C 機	マシニングセンタ 作業	切削技法(仕上げ・ボール盤・フライス加工)、プログラミング、機械操作、加工作業、課題演習	108
械操作	NCワイヤ放電加 エ	プログラミング、加工	54
	対話型NC旋盤	プログラミング、加工	54
ſ	吏用機器・ソフト	製図機械、2次元CAD(具体的なソフト名)、3次元CAD(なソフト名)、普通旋盤、フライス盤、ボール盤、NC旋盤、マ グセンタ、NCワイヤ放電加工機	

例2. 訓練課題完成図(写真、図面等)

コメント	
(重要ポイントの 部分写真、図等)	(重要ポイントの 部分写真、図等)
(課題完成品の全	ὲ体写真、図面等)

		コペント				
訓練神	入所月		.eb			
			訓練課題の私			
美脆目	氏名	訓練課題名				

訓練課題確認シート

(置奏ポイントの倒分写真、図本)	1.50	(華麗:ボイントの 御分写真、図本)	設明	
(曹長ポイントの 御分写真、図本)	*d	(開助式 イントの 産分 両、図 数)	90	
 	說明		說明	

(雑魔法院語の全体心画、図画体)

禁御する他力等	公田	田野母店	88	Ē	P-81(819)	9	를 받 다	新規組織
対のられた事業をごか養めた中心に		工程計画作成 時間	5業予備、施工方法	-	- "	10		5点:15分叫作,4点:20分叫作,3点25分叫件,2点:30分叫作,1点:30分組化
	CHSI	対金額を育む	経験の開発	-	- "	10	<	5点:16分词内,4点:20分词内,3点25分词 内,2点:30分词内,1点:30分额入
	ĸ	0.898	最易の配置、配験	-	n	10		5点:210分品内,4点:240分品内,3点270 分品内,2点:300分品内,1点:300分额及
・作業工程予算をよく知っていること・作業工程における服務等指導をよく知っていること	e		お集工程手順	-	п	10		作業工程が不適切な場合は、1箇所につき1点 減点し、最低点を1点とする。
	東土理	の経済・経済・	の 単な を を を を を を を を を を を を を	-	m	IO W	<	の第二級における工夫・後継・対会業化・職等 点が不能はな場合は、1職所につき1点滅点 し、数核点を1点とする。
着工業の名称が大のか、その表面がよくに参与した 体を実施的ないできないである。 関目を関するとなったのものと によったのものとしている。 によったのものとしている。 によったのものとしている。 によったのものとしている。		(事業(事業)	管の位工、取分付け	-	m	10		着外参の1.2 以上のつぶた、毎日の未結構、Cらつを大は整質があるごとに1点ずつ減点し、春息点を1点とする。
着工業の名称がたから、その表面がよくにあること 体を開催的ないの様々がなくにあること 関目設置工業がよくであること によっていました。		配置へに載り	〒の加工、取分付け	-	m	10		雑件参の1.2 以上のつぶた、第四の余数階、ぐらつを実に整理が多るごとにはまりがある。 そのままを置け、多のでは、 を1点とする。
部に集める等がかから、その表面がよく作事もにと ・ 解しませんが、その表面がよく作事もにと 難可能能に乗りまくがある。 非によったがある。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなかる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがなる。 またがある。 またがななる。 またがなななななななななななななななななななななななななななななななななななな		(B, 44) B(8	〒の加工、取分付け	-		10		着水形の1.0 ULのつぶれ、端口の条約機、C らつき又は実質があることに1.0 ずつ減点し、 着信点を1点とする。
機器の様本等数がよくわからに 等に関わらい。その表面がよくたからに 中国は最かれている機器がよくでからして 種の機器を関わっている。 種の機器を発展している。	#4	なるようで表示して	ブッシング、コネクタ、 ボンド業	-	n	10	<	プッシング、コキウタスはポンド部の取り付け不 新があるごとにこのぎつ滅のし、最低のを1点と する。
機能の基本価値がしていること 第1 指の名称がわらり、その第1を大くできること を指しまりました必要がしていること 種の関係を関係していていること	62	100	職器の出工、色質	-		10 T		心臓の見える様、対解顕新れば地位上)又は他 管臓に対わるごとに、点ずつ減点し、腫瘍点を1 点とする。
機能の基本需要がよくできること 主要の基準があり、その表面がよくできること 中国の主要があり、その表面がよくできること 中国の主要がある。 単一のできる。 他ので。 他ので。		20.00	圧着強緩、コネクタ接 機	n -		10		圧着不良、心臓の悪込不足又は心臓の関抗が あるごとに1点ずつ脈点し、歯肌点を1点とす る。
・第二集の名等がかかり、その接張がよくできること いので、ここと、この発表がよくできること		;	スイッチ、開卵器肌の取り付け	-	- 12	10		解集の課金(2m以上)又は報き(2 以上)が あるごとにっ点ずつ雑点し、整備点を1点とする。 る。
また・1人によるを表示しているとのできる。 できる ないしん いちゅうしん はなない かくしゅうしん		¢ 0	スイッチ、開卵器長の 電解除機(記載)	-	- 71	10		事件リの不良、事件は不良、心事の際以不能 又は韓田があるごとに、点すつ其点し、事情点 かり点とする。
・実践等の基礎についておっているいと・・実験等を用いて指導な差別がからにと		B 88.0.00	Fh. 489	-	n	10		ずれ(2) mはよ)又は焼き(6) はよ)があるご とに)点すつ減点し、最低点を1点とする。
・職力収益用金式等を用いて放棄な各種受賞ができること	Ħ	物器形式测定	機能機能計の数分数 に	-		10		0.1MS以上5点。0.1MS未開1点、新度力 は続りの点とする。
対象・実験がつきること	8	40.過2000	開催計の数り扱い	-	n	**	¢	欠陥部所1部所につき1点減点とし、最低点を1 点とする。
		海電108	機能器の取り扱い	0		2		動作不良の場合は、O点とする。
資金額当作業ができること	(KA	報告發展	部の合業権への指げ 行為	-	m	10		等も点をも点とし、不過切な作業又は行為があ るごとにも点ずつ減点し、最低点を1点とする。
	e#	15 05	の業績の専用状態、 菓子の専用	-	п	10	<	
assi	L		中計等点/第点		1	8	П	へ生物金> 4 - 4040 Y - 2044A
			2000年 本的体		1	8 8	П	
	報告の	新藤貫藤(米数) の許者						○ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
报告指导展先名:			si tt		<			
日本日の日の人								